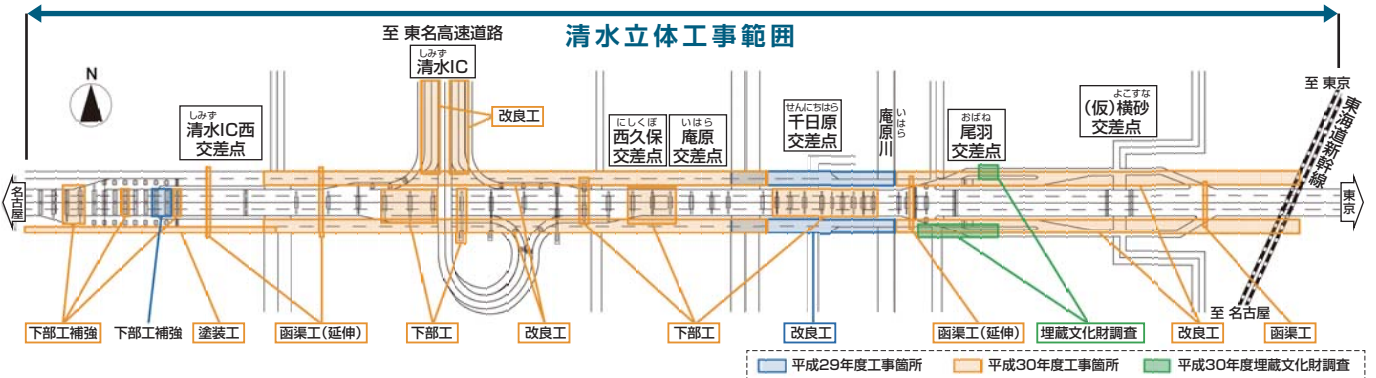
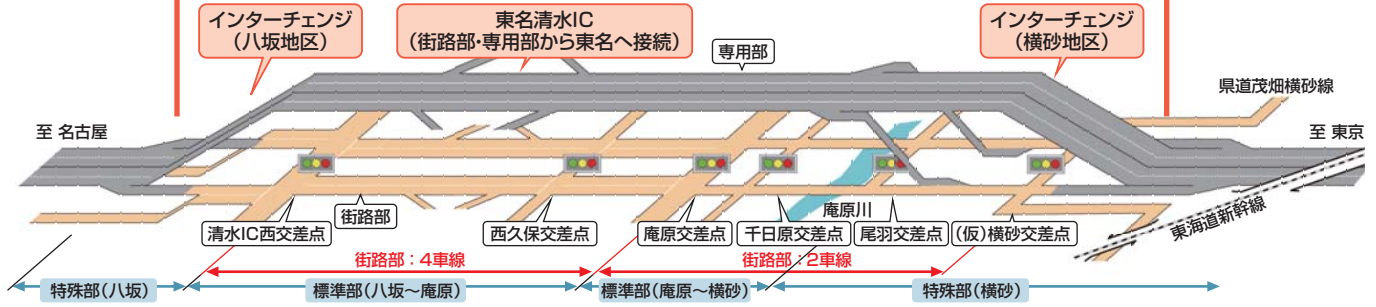


立体化する区間



念事業として清水庵原小学校6年生有志による絵画やタイムカプセルの除幕式を行いました。

清水地区の平面区間は、交差点渋滞が激しく、速度低下が発生しています。また、立体区間よりも交通事故の件数が多く、死傷事故件数突出しています。

地域住民等へのアンケート結果でも、清水地区の平面区間で渋滞・事故・環境に問題があるという認識が高く、回答者の78%から立体化など大幅な改良が必要との意見が寄せられました。

また、静清バイパスは、清水港と直結しており、袖師・興津・新興津コンテナターミナルにおけるコンテナ取扱個数がこの30年間で4.4倍に増加していることから、静清バイパスを使ってコンテナを運送する大型車の交通量も大幅に増加しています。

整備計画では、横砂地区～庵原地区(道路空間幅員30m区間)は専用部(高架橋)を4車線道路、街路部(平面)に2車線道路と自転車歩行者道を整備。庵原地区～八坂地区(道路空間幅員36m区間)は専用部を4車線道路、街路部に4車線道路と自転車歩行者道を整備。尾羽地区と八坂地区に新インターチェン

ジを設け、東名清水インターチェンジは3階建ての立体交差となります。

工事は、通行止めをせずにを行い、2018年度は道路の中央部での下部工(橋脚)の工事、街路部の改良工事、尾羽交差点周辺の埋蔵文化財調査などを行います。

4車線立体化の整備効果

静清バイパスが全線4車線立体化されると、平均走行速度が向上し、移動時間の短縮が期待されます。沿線に立地する清水港、工業団地、中央卸売市場、流通センター、病院等へのアクセスが向上し、地域開発に寄与することが期待されます。

また、上り線(東京方面)と下り線(名古屋方面)が完全に分離され、正面衝突などの重大な交通事故の減少抑制が期待されます。

その他、交通渋滞が解消されることにより、CO₂の削減が期待できるとともに、大型車の通過交通が専用部(高架橋)に転換するので街路部(平面)の交通が減少します。さらに高架橋への遮音壁の設置や、低騒音舗装を実施することで、騒音を抑制し、沿道環境の改善が期待できます。